

令和6年度第3回学校運営協議会（コミュニティー・スクール）記録

開催日時	令和7年2月18日（水） 10時00分 ～ 11時30分	
会場	北海道函館養護学校 会議室	
出席者数	6名	3名（学校）
出席者名	函館市旭岡町会長 北海道函館養護学校 PTA 会長 函館市旭岡小学校長 函館市福祉事務所函館療育・自立支援センター長 社会福祉法人友愛会つくしんぼ学級おひさま園長 NPO 法人日本障害者・高齢者生活支援機構理事長	校長 野 中 宏 教頭 嶺 岸 美 幸 総務部 松 倉 泰 介
内 容	発表者	記 録
※10：00～11：30		
1 日程説明	教頭	<ul style="list-style-type: none"> 開催要項のとおり
2 地域資源の活用	教頭	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源の活用について 小学部－課題学習（コープ旭岡店：買い物学習）、居住地交流（浜分小学校） 中学部－遠隔社会見学（沖ワークウェル：香川県小豆島オーリーブ） 高等部－生活単元学習（ささき氏：アート活動） 生活単元学習（木下氏：進路学習メイク講座） 小中高－芸術鑑賞会（函館躍魂いさり火：よさこい演舞） 寄宿舎－クリスマス会（旭岡中学校リコーダー部）
3 学校評価（職員）	教頭	「地域資源の活用や ICT 機器の活用については、課題が見られると評価されていた。」
	校長	「ICT 等の活用については、学校全体の取り組みとして研修の機会を積極的に設定した。」
4 学校評価（保護者）	教頭	「訪問教育について、地域活動や交流学习については学習の機会等で困難な部分もあるという意見も散見された。」
5 次年度の学校経営方針	校長	「今年度の重点について、『函館養護学校は何を頑張っているのか』と尋ねられたときに、本校の教員一人一人が端的に言えるような目標を設定した。」
	校長	「これまでのコロナ禍での経験を受けて、『個別最適な学び』と『協働的な学びについて』、一人一人の個の学びと集団的な学びという一見、相反する学習を教員が意識して授業を組み立てられる視点があることが重要だと考える。」
	校長	「ウィルビーイングとは、子ども達の主観的なよさ、心地よさ、安心できる環境、居場所について、子ども達のウィルビーイングの環境づくりが、やがて職場の環境、地域の環境のよさ、過ごしやすさ、安心できる地域環境につながるものと考えた。」



6 質疑応答

校長	「笑顔あふれる学校へ～ウィルビーイングを高める学校づくり～それを実行できる学校として、次年度の重点では『人とかかわる力の育成』と『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』とした」
校長	「学校のDX化について、引き続きICTの活用を充実させたい。」
校長	「学校の情報を発信する方法としてnoteの活用を検討している。」
校長	「繰り返しになるが、生徒の安心安全な学習環境は、職場としての安心安全な働く環境であると考えたい。」
細谷	「学校がブラックだと囁かれる状況がある。一方で、教員採用試験を教育大の学生が受ければ、容易に全員が受かってしまう現状もある。学生を教師として送り込む大学側としては、学校での働き方改革とは、何を狙っているものかを尋ねたい。」
校長	「本質は、子ども達の学習を充実させるために、教師の仕事の効率化を図っていると考えたい。また、本校の教師のスキルを向上させることも効率化の一助であると考え研修の機会を増やしている。現代のように変化の激しい時代にあって、教師力の向上は、子ども達の学習向上に密接につながるものと考え。子ども達の学習の充実が結果として、仕事の効率化、つまり働き方改革ではないかと考える。」
細谷	「学校も、教師もブラッシュアップするべきと考える。また、学校の効率化を図るためにはスクラップアンドビルドも必要だと思う。ところが、なかなかそれが上手く機能しないのではないかな。」
校長	「例えば、保護者への連絡や日々の記録等、クラスルームやメール等でやり取りをすることも1つの方法だと考える。記録用紙やノートなど従来の方法の良さもあるが、今後、実施を検討したい。」
細谷	「ICTを活用して、学校業務の効率化を図る貴校の取り組みを教えてください。」
校長	「例えば、学校日誌等の業務について、記録をしたり、ホワイトボードに記入したりしていたものが、教員がいつでも見られるようクラウド上で共有を図れるようにした。」
教頭	「従来のドライブでは、フォルダがどこに入っているかが分からなかったが、ポータル（クラウド上）で複数のデータを管理したことで整理され見えるようになった。ICTを活用することで、業務が効率的になった一例である。」
田中	「例えば、各行事など、良くも悪くも前年度の踏襲が多かった印象があった。しかし、最近で言えば、体育祭を外で実施する学部があったり、文化祭で受付や売り子を生徒が主体でおこなったり、生徒の自主性もそうだが、先生方の意識が変化しているところが見られていて、まさに、スクラップビルドの改革が実行できていると感じている。」
校長	「とても嬉しい意見である。次年度は、行事の平日開催を検討するなど、相対的な学校の改革も考えつつ、働き方も含めて環境の改善や変革を考えたい。」
高井	「教員の人材確保等、学校は年々厳しい状況にある。そんな中で貴校は、先生方一人一人が愛情をもって、児童生徒と接している姿がとても印象に残っている。また、勉強にもなった。これからも、実践を継続してほしい。」
原口	「（函館養護）学校に子どもを通わせている一人の親として、この協議会での活動をとおして、先生方がこれほど一人一人の子どものこ

7 閉会の言葉

	<p>金沢</p> <p>校長</p>	<p>とを考え、日々の学習活動に取り組んでいるのだということを実感した。おそらく、このような経験をしなければ気付かなかったことだと思う。もっと、他の保護者の方々にも知ってもらいたいと思う。」</p> <p>「卒園した子ども達を学校へ送った側としては、きちんと見届けたいという思いがある。その意味でも一人一人の成長や活躍が見られ、良かったと安心して協議会へ参加することができた。これからも、互いのつながりを大切にしていきたい。」</p> <p>「今年度3回目であったが、この協議会を充実させたいと考えたときに、地域が本校の子ども達のことを学校と一緒に考えてようという会であれば良いと考えた。それは、どんな学校、どんな児童生徒の育成を目指し、地域として何ができることが子ども達にとって有益なのか、つまりそのことを考え続ける会であれば良いと私は思う。皆様のご意見が本校の子ども達のために活かせるよう、今後とも協力よろしく願いいたします。」</p>
--	---------------------	--